

今回のポイント・・・「連作障害」 ～ なぜ、連作はいけないの? ～

限られた畑地で作物栽培するのに避けては通れないのが「**連作障害**」です。

いくら良い種や苗を撒いたり植えたり、また良く利く肥料を使っても、ナスやトマト、ジャガイモなどを同じ場所で連続して栽培すると、生育が極端に悪くなったり収穫量が減少したり枯れたりします。このことを「連作障害」と言います。

原因は、作物が成長する過程で、好みの栄養分だけを吸収して、それ以外は、作物が吸収しない成分や前作の作物の根から分泌された成分が土の下層に残り悪影響を起こします。

それでは、どうすれば「連作障害」を軽減できるのでしょうか。

★野菜の作付けカレンダーで作付け計画を立てよう!!!

菜園(畑)をいくつか区切って、**作付する野菜を1年ごとにずらして**いけば連作を避けることができます。

★連作対策

- ① 土の下層に植物が吸収しない成分や前作の根の菌などを、スコップで30 cm以上「**天地返し**」で土壌を混ぜて改善しよう。
- ② **有機物**をたくさん冬場に投入しよう。堆肥、鶏糞、油粕、腐葉土など分解している有機物。「生」は効果なし。
- ③ 燐炭(くんたん) → **土壌の通気性**を高めよう。白い灰は中和剤になります。
- ④ 根こぶ(根にコブのようなようなものができる病気)が発生すると生育しない。
根こぶは薬剤を投入しよう。感染しやすいから。

★まとめ

土が良くなる ⇔ 微生物の効果 土壌改良と考えよう。おいしい野菜を作るなら。

～～～ 豆知識 ～～～

水稲は毎年同じ田んぼで作られているけど・・・?

『連作障害』は起こらないの???

田んぼで連作障害が起こらない理由は、「水を張っているから」です。

野菜や穀物の根には特定の微生物が集積して、やがては根の中に入って障害となっていきます。連作障害は、その特定微生物の集積によって発生するので、輪作が対策になるわけです。一方、水田には水が張られ、生育の大部分は嫌気条件下となっているので、酸素を必要とする好気性微生物の発生や集積は起こりにくくなります。結果的に、連作障害がおこる要因が排除されているために発生しないのです。